

### 第3回大和川流域委員会 議事概要

開催日時：平成16年11月29日(月)13:00～15:50

場所：梅田センタービル18階 H会議室

委員出席数：出席14名、欠席3名

#### 1. 議事

##### (1) 第2回大和川流域委員会審議報告、現地視察会報告

第2回大和川流域委員会審議報告及び現地視察会について報告された。

##### (2) 今後のスケジュールについて

今後の流域委員会のスケジュールについて審議され、スケジュール案が了承された。なお、次回委員会は、第4回1月28日、第5回3月14日の各日程とすることが報告された。

##### (3) 委員からの情報提供「特徴・歴史」

###### (a) 千田委員：「大和川と歴史の流れ」

条里制を例とした歴史と治水の関係。「サイトミュージアム」構想とエリア別の提案。地域の文化や物産を愛する気持ちが川を愛することにつながる。

###### (b) 小松委員：「よみがえれ大和川 堺からの発信」

小学校教員として大和川学習にとりくんできた立場から、「わたしたちの大和川」副読本やCD-ROMなど、河川事務所の事業の成果を確認。継続と充実を要望。

付け替え300周年の成果を生かし、研究者・市民・他省庁・自治体と連携し、研究の発展・自然環境保全・遊べる川への復活を促進したい。

##### (4) 大和川の現状説明「空間利用」

河川管理者から現状説明、および「特徴・歴史」のテーマに沿った部分の質問について回答。

##### (5) 大和川の「特徴・歴史、空間利用」についての意見交換の要旨

###### (a) 歴史と治水

- ・ 川が条里制の形状に沿って直角に曲がっている場合には、治水上の弱点となる可能性がある。現存する歴史的な土地利用形態が川の安全度の問題に関わっているという認識が必要である。
- ・ こういう盆地の中小河川、いわゆる内水河川で川が直角に曲がっているところの氾濫が最近はこちらで発生しているのは事実である。直角に曲がっている川や小さな川も含めた流域の治水安全度については今後の課題と思われる。

###### (b) 流域の治水

- ・ 低地を宅地造成して住むようになり、流域の安全度がさらに低下していることも考慮する必要がある。

###### (c) 地球温暖化と治水

- ・ 地球温暖化に関するシミュレーションの結果なくしてこれからの治水対策は考えられないのではないか。
- ・ 「時間雨量100mm以上」の短時間に強い雨が降るパターン年間出現率が増えてきているという事実に基づいた治水計画がこれからは必要になっていく。

###### (d) 森林と治水

- ・ 山は、間伐等の手入れをすることによって、植生として治山や水源林の機能が発揮される。
- ・ このような観点で大和川水系の森林の現状や対策の実態を知りたい。

(e) 流域、地域の連携

- ・ 川の浄化や環境再生は、国・府県や市町村等の行政機関の連携、そして市民研究者のネットワークとの連携も必要である。
- ・ 治水や環境に関する行政や地域の連携の例として、総合治水、清流ルネッサンス、水質汚濁、環境整備等の協議会等がある。

(f) 「サイトミュージアム」構想

- ・ サイトミュージアムは箱物構想ではない。散策をしたときに現地に設置したパネルや写真の解説を見て環境や文化が学べるという構想である。
- ・ 地域の文化や大和川を守りたいという発想が川に注がれる点でサイトミュージアムはいい構想だと思う。併せて現存生物のデータベースも蓄積して頂きたい。

(g) 大和川の自然

- ・ 大和川のヤナギ、ヨシ帯の植生部分は、親水性からは、かけ離れるかもしれないが、河川本来の植生という取り組みも必要ではないかと思う。
- ・ 大和川は、全体としては汚いと思われている川であるが、生物的に言えば、大和川は日本中で中くらいの生物相を抱える多様性が失われていない川である。川の改修が人間本意ではなく、人間が川と折り合って来た結果である。
- ・ 水辺の国勢調査のデータを提供してほしい。また、渡来植物の問題等、良いか悪いかはデータ等を見てから判断すべきである。
- ・ 河川敷の自然の整備をあまり進めてもらいたくない。多自然工法の採用にしても従前の自然環境に配慮して行って欲しい。

(h) 川に学び遊ぶ

- ・ 日本では水質が悪いから魚がいなくなったと信じてしまって川をだめにした。魚は汚いなりにすんでいた。安易な自然観察会をすることは、かえって環境が悪い方向に行くのではないのかと危惧される。

(i) 河川空間利用

- ・ 景観で大事なことは、目の下に水面が見えるかということだと思う。河川の評価軸を、土木技術からはどう評価したらいいのか、それぞれの地域にあった評価の指標を見つけてほしい。
- ・ 特に下流の方は都市部の河川であり、河川というスペースに対していろんな利用要求があるということは確かだが、これは今後の課題である。

(j) 土砂動態

- ・ 大和川河口の土砂の生産源を土砂動態マップで解明してほしい。ただ単に生態系からの観点ではなく、生態、土砂、河川についてトータルに評価していく事が必要と思う。

(6) その他

情報公開の方法に音声公開方法の原則を追記することについて審議され、情報公開の方法(案)が了承された。

2. その他報告

第1回流域委員会における一般傍聴者発言内容について、再度確認のうえ議事録を修正したことについて報告された。また第2回流域委員会の議事録案の内容・書式の記載が誤っていたため、訂正報告された。

以上